

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270901588		
法人名	有限会社ぐるうぶほうむ礎		
事業所名	ぐるうぶほうむ礎		
所在地	船橋市行田3-2-22		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険法第4条 国民が担う義務に関して
 ”利用者さん一人一人が持っている機能を奪わないようなケアを行っていくには？”を特に心掛けてながら 日々の関りに努めるようにしています。当事業所は”生活そのものがリハビリである”と考えています。
 ”何が出来ないかではなく、何が出来るのか？”に着目して向き合うよう努めています。
 医療・看護・介護・調理 各々の職員が当施設では常勤職員として業務を担っています。
 当施設の理念として”介護保険法の目的を核に、看取りは居宅で…”と掲げています。グループホームとしては手厚い職員の配置にて任務に当たれているところが強みかと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①介護保険法の目的を核に、看取りは居宅で…家族と共に…等独自の理念を掲げ、利用者の「命を守る」覚悟を決め、職員全員で細かな支援を共有し、利用者・家族、職員が共に能力を出し合い、補い合う介護が実践されている。②職員は認知症対応のプロとして入居者の言動を受け入れながら共に暮らす支援に努め、寄り添い、耳を傾け、思いを叶えられるよう話し合い工夫を重ねながら真摯に取り組んでいる。③理念に共感した職員は離職率が低く、長く働いている職員が殆どであり、明るく活気に溢れている。④ホーム長が医師であり看護師が常駐し、訪問医との連携も良く、グループホームとして手厚い医療体制が確立され、人生の最後まで寄り添う「終の棲家」は利用者・家族から高い信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれが出来る能力を出し合い補い合うという企業理念があります。これは職員も、利用者さんも共にという意味です。常に利用者さんが自分で出来ることはないかを皆で考えながら、実践に努めています。	「看取りは居宅で」「一歩前の介護を」等独自の法人理念の基、理念実現に向け、一人ひとりの利用者の命を守る覚悟を決め、全職員で一貫して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は昨年12月に、近隣のUR及び自治会主催の防災に関する催し物に参加しました。以前より自治会会長様とは、地域の連携を図っていききたい旨の話をしていました。今回は職員の単独参加でしたが、今年以降は利用者さんも共に参加できればと考えています。	自治会長が運営推進会議に参加し、地域の方に施設を理解して頂き連携を深めるよう取り組み始めている。今年度、自治会主催の防災イベントに職員が参加し、防災について学ぶと共に地域の方と交流する機会となっている。	事業所が検討している認知症カフェなど、地域住民の認知症理解につながる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在ぐるうぶほうむ礎としての対応は、運営推進会議を利用しての情報の発信が主となっております。地域包括様、自治会長様等と情報の共有に務めていきたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状では、利用者さんの日常生活に関して、細やかに報告を行っています。ご家族の貴重な意見なども参考にして、日々のサービスに反映させられるよう業務に努めています。	運営推進会議は2名の家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2カ月ごとに開催され、施設の現状、身体拘束廃止の取り組みが報告されている。また、外部評価結果報告書を会議前に郵送し、意見等を得るように取り組んでいる。	会議では事業所からの報告が主である。さらにアドバイスや意見を得る取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係機関様とは、必要に応じタイムリーに連絡を取るようになっています。気になる事や、施設のみでの判断に迷うときは、すぐ関係機関に連絡を取りアドバイスを受けるようになっています。	指導監査課とは運営面でアドバイスを得ている。生活支援課とは生活に困窮した方の情報を共有して支援にあたっている。地域包括等が参加する介護保険事業所、多職種地域連携勉強会に参加し協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を念頭に置き、全職員が悩みながらも、どうしたらなくていくことが出来るか？考え実践しています。一日の生活を細分化して、どの時間なら解除が可能なのかなど日々検討を重ね、拘束ゼロに向けた取り組みを行うようになっています。	朝礼時に虐待防止の読み上げを実施し、虐待防止研修会で職員同士が話し合い、身体拘束ゼロを目指している。切迫性など、やむを得ない場合も最小限に抑えるために話し合い、常に改善策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	船橋市の高齢者虐待防止マニュアルを基本に虐待を未然に防ぐよう内部で研修する機会を持っている。更に有限会社ぐるうぶほうむ礎の関係施設とも共同で研修を行い、共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等にて内容の周知に努めております。現在数名の方に後見人の方がついてます。職員には後見人の果たす役割等を理解してもらい利用者さんの権利を侵害するようなことなきよう業務に従事してもらうように心掛けてもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所が大切にしていることや方針もきちんとお伝えしたうえで判断していただくよう誠実な説明を行うようにしています。必要に応じて内容を改定させていただく際にはお手紙を送付しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に家族会開催の場にて、ご家族の意見や要望を聞くことに努めております。利用者さんの意見や要望に関しては、内容によってはご家族に確認や同意を求めたりする場合があります。可能な限り施設と利用者さん・ご家族が、同じ方向を見て施設の運営が出来ればと考えています。	職員と利用者・家族と共に能力を出し合い、補い合う介護に取り組んでいる。家族会や来訪時等に意見・要望の把握に努めている。利用者調査では殆どの家族が「グループホームは気軽に行きやすい」と回答されていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼の場を主に活用して、職員の意見や提案を聞くことが当施設では一番多いかと思えます。必要に応じて改善を講じるようにしています。	毎日の朝礼で利用者情報の共有と支援方法の話し合いが行われている。管理者は介護プロフェッショナルアッセサーとして個々の職員育成を図り、集団としての専門力の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護プロフェッショナルキャリア段位制度を導入しています。アッセサーは現在一名在籍しており、個々の職員の向上に努めています。魅力ある職場環境を作っていくよう今後も整備に努めていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールをもとに、内部研修は進んでおります。法人としての研修は資料を受け取るなどして対処しており、更にみんなの理解を深められるように意見の取り交わしや、一言感想を記入するなどの取り組みも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナの影響もあり開催されてはませんが、管理者は船橋市のグループホーム連絡協議会の会議などに参加するなどして交流を深めるよう努めています。職員は外部研修が一部解禁となったタイミングで今年研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護保険法第四条をもとにご本人様が、どう生きたいのかを念頭に、ご本人様が助けを得なくては出来ない部分の手助けをするように努めています。”どこを切っても金太郎館の介護を”を当法人の理念に掲げており、常に一定の水準のサービスを提供できるよう努め、安心を確保できるように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族及びご本人様のお話を聞かせていただいたうえで、信頼関係を築くためにも、当施設で出来ることと出来ないことを明確に伝えることを心掛けています。どんな形であっても共に関わっていただきたいことはお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設においては、衣食住介護医療の五本柱を掲げ様々なケースに対応できるよう努めています。必要に応じて医療機関様、専門機関様などの意見なども参考にするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当社の企業理念として“介護保険法の目的を核に”というのがあります。介護保険法第4条を確認しあい、共に生きることを念頭に置き支えあう関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主な場所は、二か月に一回開催しております家族会の場にて、意見交換を交わしております。面会も現在は殆どの場合で可能となっています。その際に細かな近況を伝えるなどして、ご家族ともサポートしていただく関係を築けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会などの制限はほとんどありませんが、当施設の決まりとして、キーパーソン様の許可のない面会は、お断りさせて頂いております。その方の許可にて得られた方々との関係の継続には支援を行っていくように努めています。	利用者は独居で介護度の高い方が多いのが現状である。家族、友人・知人の来訪や馴染みの美容室、病院など関係継続に努めている。長く入居されている方が殆どであり、職員が一番の馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物などへの関りを持っていただいている方などがいらっしゃいます。話をしながら時には相手の方の手助けをしている場面をみることもあります。無理強いしない範囲で、皆さんが関りを持つことが出来る場面が増えるように支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的には、サービスが終了しても必要に応じて、相談や支援を行うことがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、思いを伝えてくださる方もいらっしゃると思います。ご本人が思いを伝えることが難しい方には、ご家族の協力を得て意向を伺うこともあります。一人一人の思いを受け止め、それを職員全体で共有するよう努めています。	言葉で言い表せない方が多いが、その時の表情などからその人の立場に立った思いの把握に努めている。本人が発した一寸した言葉を書きとめ、暮らしや心配ごとなどを想像しながら思いを受けとめるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人さんの、能動的な行動を大切に见守り、安全に注意を払いご自分のペースで生活できるよう支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録及び申し送りノートの活用にて、日々の現状把握に努めています。更に毎日の朝礼にて、気になることはすぐにケアカンファレンスを行います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りにおいて、ご本人の意向を汲み取るための聞き取りを行うように努めています。また家族会開催時に必要な情報をご家族と共有することにも力を入れています。総合的な情報、意見等をケアマネも参加する朝礼を使って介護計画に反映させられるようにしています。	職員全員が全利用者の情報を共有し、気になることはすぐカンファレンスをおこない、小さなことでも介護記録に残している。担当者会議では全職員の意見を収集し、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	皆の意見アイデアをもとに、個人記録のフォーマットの微調整を行っており、より情報の拾い出し及び情報の共有がしやすいものに変えていっています。分かりやすい統一した言葉使い、表現を使用することで、情報の共有がしやすくなるようにも努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	命を守るを念頭に、昨年度末に簡易陰圧装置を導入。入院が断られることを想定して感染症対策の一つとして導入した経緯。 職員が働きやすく、利用者が介助を安心して受けられる、介助支援機器の導入も順次行っており、直近では床走行式リフトを導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設は訪問診療を導入していますが、元気な方にはフォーマルサービスとしての病院受診を行っております。外出支援としての意味合いも持ちます。インフォーマルとしては新聞の購入など、他今後は自治会様と連携をしての社会資源の活用も検討しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が長らくかかれていた医療機関に、出来得る限り継続受診できるよう配慮しています。なお当事業所は、訪問診療が可能なかかりつけ医が、提携医療機関となっています。	今までのかかりつけ医への継続受診や訪問診療医と連携を図り身体状況に応じた精神科、眼科、皮膚科等の専門医受診についても適切な支援が行われている。また、入院時には地域生活連携シートを活用して病院との間で必要な情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の強みとして、看護師が常駐していることです。医療連携に関する加算も取っており、看護師との連携は十分に取れているかと思っております。看護職・介護職は常に情報の共有に努めており、医療に繋がれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所では、介護・看護・ケアマネが密に連携を取り合い、情報共有し合っており、迅速な対応ができるよう日々心掛けています。先方のソーシャルワーカー様とも情報交換をして、利用者の不利益にならぬよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には、入居後すぐに本人及びご家族に対して、意思の表明を聞き取りしうえで書面での約束ごとを交わすようにしております。可能な限り、家族と両輪でご本人さんと向き合える関係を築けるよう努力をしております。	看取り期においても、本人および家族の希望を叶えるために職員は一丸となって、日常の変化を丁寧に情報共有しながら支援している。お風呂に入ること、好きな物を食べることなどの思いを実現するにあたって、検討と工夫を重ねながら真摯に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えたマニュアルを作成しております。日ごろは内部研修を通じて各々知識を得、実践練習等にてシミュレーションを図っております。来年度は行田消防署へ初期消火訓練の依頼を検討中。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成済み。情報の共有を徹底していく。今年度、来年度を通じて運営推進会議を利用して、自治会様との連携を密にして地域単位で協力体制が取れるようにしていく方針。今年度は、UR、自治会主催の防災祭りに職員が参加しました。別法人だが、一般財団法人もと福祉会とも連携を取り協力をお願いしていく。	防災訓練は、夜間火災の想定での総合訓練が実施されている。施設の廊下には、消火器の位置や避難経路を示した図が掲示されており日頃からの防災意識に努めている。また、自然災害発生時の事業継続計画(BCP)も策定され、職員説明も行われている。	今年度は、自治会開催の防災祭りに職員が参加し、防災に関する様々な確認を行った。今後は、地域住民に施設利用者の避難誘導後の見守り協力等が依頼できるような関係構築に向けた取り組みに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時に毎日虐待防止の読み上げを行い事業所としての最低限度のマナーの維持に努めています。内部研修をきちんと行うことを当然として来年度新設される認知症チームケア加算を念頭に、チームで利用者個々に向き合うことを意識していくよう努めています。	毎日の朝礼では、不適切ケアに関する確認が行われており、職員は常に利用者本位であること、個別の可能性をみることで、自立支援に資する支援となることに自問自答しながら、一人ひとりの利用者の人格を尊重することに前向きに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中に見つけ出すことと、どんな方にも思いを表現してもらいたく、看取り対応中の方であっても食べたいものがあれば、それを提供するなど特別なことではなく、当たり前の支援であると考え対応できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしの提供を第一選択として向き合っていますが、あくまでも介護保険法第4条に則り、健康の保持増進には努めていただく生活の提供は行うようにしています。自由に暮らしていただきたいのですがあくまでも認知症対応のプロとして、向き合う利用者さんにはその有する能力の向上に努めていきたいと考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんの使い慣れたものを使っていただくように努めています。 身だしなみに関しては、爪、ひげ確認シートを作成し、看護職・介護職問わず利用者さんの状態確認に努め必要に応じてケアに入るようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下の能力を見極めつつ必要に応じて訪問歯科さんの協力を得て嚥下機能検査を受け、食事の形態を変えながら、その方が食事を続ける楽しみを持っていただけるよう努めています。下膳は、形合わせを意識してもらいながらの下膳を行ってもらうように工夫をしています。	訪問歯科診療における嚥下機能検査を実施することによって、食事形態の検討だけでなく摂取時のポジショニングが的確となり、むせの軽減や嚥下しやすさにつながっている。食事の楽しみは、おせち料理等の行事食や個々の好物など工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療職・看護職とも密に連携をとって、個々人の栄養や水分量などを決めております。 Life加算を取っているため、細部にわたる個人データを皆で共有しながら必要に応じて変更を行うようにしています。直近では、エナツプというカロリー支援補助食品を利用している方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科様の助言を得て、ケアを実践。 降雨空衛生管理体制加算も取っているため、より具体的なケアの実践ができるよう助言をもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに自分で行きたい思いを立位保持が難しい人にもと、現在立位支援機器の導入を検討しています。以前メーカーさんの協力をもとに実演指導を受けましたが、導入には至らず。介護職の力量に合わせた支援を実践中ですが、あくまでも当施設の理念である、金太郎館の介護の実践をもとに支援してします。	できる限りトイレでの排泄を実現するため、利用者本人ができる動作を継続したり、安全にできる動作を増やすことに取り組んでいる。本人のその時々々の心身状況や介助時の環境等を見極めながら、自立に向けた適切な支援の方法を選択し実践に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に介護と看護が連携している施設ですので、個々の利用者さんの体調管理には細心の注意を払いつつ対処しております。飲食物を個々の体調に合わせて提供することも行い、なるべく自然排便できるようまずは務め、医療に繋げていくようにしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	どんなに短い時間でも、浴槽につかることが大事であると、代表及びホーム長の考えをもとにできる限りどんな方にも入ってもらいたいと考えています。今年度導入した床走行式シフトはまさしくこのために導入した次第です。利用者さんが以前に比べて安心して入浴していただいています。力に不安のある職員も現在率先して介助に入ってもらっています。	入浴支援に関しては、清潔保持や血行促進だけでなく運動効果を高めることにもつながるとして、なるべく浴槽に浸かれるように支援が行われている。利用者の状態に応じては床走行式リフトを活用しており、本人にとっても安心して安楽な入浴支援につながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムがうまく作れない方に対しては、職員の方から休息の促しをして休んでいただくようにしてもらっています。居室の採光に気を配り、必要に応じてベッドのレイアウトを変えるなどしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在薬剤師による訪問指導をうけており、介護職・看護職が情報を共有するよう努めております。服薬準備・内服確認は必ず二人以上でのチェックを行うようにし、誤薬がないよう細心の注意を払っております。毎日の朝礼時に変化の有無等を報告し皆で確認しあうよう取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物などへの関りを持っていただいている方などにはその関りを、介助時に必要な新聞やビニール袋の事前の準備を手伝ってくださる利用者さんもいます。絵本が好きな方はテーブルで読書をなど、必要に応じて支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出の機会に恵まれていませんでしたが、当敷地内には、木々、花々が彩っています。寝たきりの方々にも、リクライニング車椅子を使用して外気に触れていただく機会を作ったりなどの支援に努めるようにしています。今後は、地域資源の活用を念頭に買い物などでもできる環境作りに努めていきます。	施設玄関から続く庭は、ふきや枇杷等の食物から沈丁花や藤等の季節の花を楽しむことができる。続く団地商店街もフラットな道のりで車椅子の方の散歩コースとなっている。その他、行きつけの美容院やコンビニエンスストアの買物に同行支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居時に、ご本人さんに現金所持はお断りさせていただいています。 必要に応じて、施設で必要な買い物などの際に同行にて購入していただくなどを考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在ご自分からの電話、手紙のやり取りを行っている方はいらっしゃいませんが、必要に応じてテレビ電話の活用などを検討しています。 手紙に関しては、書く機能を残してもらい多との考えで通院や訪問診療時に出された処方箋をコピーして、ご自分の名前を書いていただくなどの残存機能の維持支援に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾りっており、季節を感じていただけるようにしております。温湿度は時間毎に空間のチェックを行っており快適な環境を維持できるよう取り組んでおります。 現在利用者さんが食堂で着席に迷わないようにネームの貼り付けを実施。椅子に色付きのカバーを装着するなどして混乱を予防するよう努めています。	食堂や廊下等の共有空間は、清潔に努めながら特に湿度については徹底した管理が行われている。食堂には、季節が感じられるよう生花が活けられており、利用者の席にはわかりやすさに配慮した、個々にあったネームプレートや椅子カバーが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	作業をしている方や、談笑している方、テレビを見ている方色々な場面が見受けられます。その場所には馴染みの職員がいつもいるようにもしており、ご利用者昌への対応にも努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入られる利用者さんの症状を鑑みて、必要なものの受け入れを行っています。 写真やお手紙、お孫さんと一緒に折った折り紙など、その他方独自の居室づくりを支援しています。寝たきりで体位を変えないといけない方には両サイドにテレビを設置するなどの支援を行ったりもしています。	本人の意向を大切にしつつ、身体状況を考慮した安全性の高い居室レイアウトが行われている。新聞や本、家族写真、テレビ等の好きな物を体に負担をかけることなく楽しめるように、その配置には検討に検討を重ね、ベストな環境づくりを目指し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時間の把握をしていただきたく、実際に行ってもらいたい時間を記入したボードを掲示したり、利用者さんが迷わず判断できる支援に努めています。手拭きタオルを全員色を変え、各自のネームを張り出しています。皆さん自分の名前を確認しながら使用する姿が見えます。		

目標達成計画

作成日: 令和 6 年 3 月 16 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	以前に比べて幾分地域との交流を図ることが出来てはいるが、まだ積極的な関りが出来ていない。	地域の方との交流を持つ機会を増やしていく。 情報発信する機会、環境を作る。	地域の活動には、積極的に参加していく。 塚田の会への参加にて情報の発信をしていく。	6ヶ月
2	3	運営推進会議をよりよく活用が出来ていない。 意見の聴取がうまくできていない。	運営推進会議において、利用者さん及びご家族の意見を聴取出来る方法を作っていく。	運営推進会議に参加できない方でも、意見が聞くことが出来るように、お手紙を出すなども行っていく。 同地域の同業他社様にも参加を促すように心掛けていく。	6ヶ月
3	13	BCP策定後、これから実践してため現状その策定がどのようなものを評価出来ていない。 近隣との連携がまだ構築されていない。	自治会との連携、塚田地区の関係各所との連携 BCPをより良いものにブラッシュアップさせる。	BCPの訓練を早期に実施し、より施設に適したものとする。 外部での訓練や研修などがあれば、積極的に参加していく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。